



新潟県山野草をたずねる会機関紙  
第11号

会員数67名(12/7現)  
事務局  
長岡市下条町1406-6  
印 刷  
(有)佐藤印刷所  
TEL 32-0681

## 生物界の七つの掟

新潟県山野草をたずねる会々長

小日向 孝

自然を正しく理解し認識を深めるためには生物界における秩序性を知つてることが大切です。ドイツのチャーチセン教授による次の七つの掟を紹介します。

### 一、生物社会秩序の法則

地球上に生存するすべての生物は、その個体も種群もまったく単独で生活しているものは存在しない。すべての生物がお互いに入り組んだ生物社会を構成している。それを植物群落・動物集団に分けることができる。いずれもその生物集団の中で互いにいがみ合いながらも共存している。個々の生物集団の構成員は、その個体が集まって総合されて成立している生物共同体または群落・社会が発展・安定・老化・衰退・次の世代に変わってゆく時間的プロセスの中で、相互に時間的・空間的・機能的に対応し、それらの種や個体が共存している。

### 二、外的社會規制の法則—環境規制

それぞれの場所で生存している生物は、環境という関所を通して、その全植物種群(フローラ)および動物種群(ファウナ)の中から限られた一部の種群が存続を許容されているにすぎない。従って、それぞれの場所には、外的な環境規制によって選択された種や個体群のみが芽生え、また生まれる。

### 三、内的社會規制の法則—社会的秩序規制

この世に生まれた動物(人間含)、植物は、生まれた途端に第二の社會規制で選択される。すなわち生物社会の一つの枠の中で、そこでのさまざま立地条件にきびしく選ばれ、耐え得た種群のみが固有の生物社会を構成している。その形成された社会集団の中で個々の種や個体の構成員が生

まれ、成長・繁殖・老衰・死んでゆく。個々の種の交代はあっても、生物共同体としての形成、発展さらに崩壊・再生が秩序づけられている。したがって、生物社会の変動・平衡は、外因的な環境規制と同時に、その集団社会内における互いの「競争・共存・我まん」の内的規制に耐え、残ることのできた個体および種群のみが固有の植物群落・生物社会を形成する。生態系として維持している生物集団は、その生物社会自体が維持能力や更新発展能力を有する。

### 四、空間的秩序の法則

生物社会は、それぞれの生活空間・生育空間の中で一定の位置、地位を有している。したがって、それぞれの生物集団の維持および発展には、そのための最小面積が必要である。しかも、各生物集団の空間的な広がり、地理的な配分は、立地条件や自然環境の多様性に対応して多彩で一定ではない。生物社会は空間的には、ある特定の隣接生物集団と接している。また、人為的影響等で集団が他の生物社会とおきかわるとときは、その本来の自然植生や生物集団が許容しうる範囲の代償植生にしか交代することはできない。すなわち土地本来の植物社会では、自然植生と人間によつて変えうる二次植生、代償植生の種類は限られる。

### 五、時間的秩序の法則

生物社会は、夜・昼・季節などの時間的リズムに対応した発展の秩序をもつてゐる。また、社会の形成・発達・維持さらに退行・他の社会への遷移移行も時間的な秩序に従つてゐる。時間的な秩序は、その生物社会の構成員の組合せ、組成の変化として、把握することができる。しかも、そのおかれれた自然環境の総和との関わりあいで、動的に平衡状態が維持できるまで絶えず移動してゆく。それを、植物社会では遷移といふ。より初期の先駆的な生物社会では、さまざまな可能性をもつてゐる。一時的な人間による環境や生物社会への干渉によつて成立する生物集団も、その土地の潜在自然植生など潜在能力に応じた固有の自然の生物社会によつてきまる。

### 六、機能的秩序の法則

生物社会は一つの有機体ではないが、有機的にむすびついた作用あるいは機能システムである。そのシステムの中ですべての構成員が互いに直接、間接に干渉しあつたダイナミックな集団である。生物社会はその社会的な枠組の中で互いに作用したり、反作用を受ける。集団の自己再生・物質生産・土壤の形成・再生・地面表層の固定や保全等さまざま形で集団全体が維持しうるような働きを行つ。それは、その社会を構成している動物・植物・菌類・微生物などの相互の競争・我まん・共存という活動ならびに分担機能を維持している。そして、生物社会の発達や動的な平衡状態の維持へと総合される。

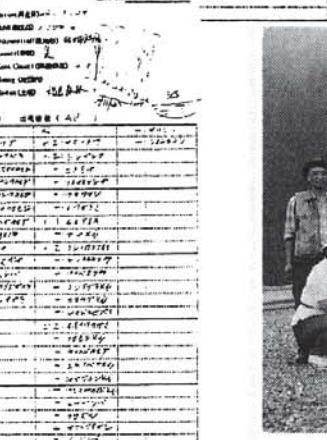
## 七、調和の法則

生物社会の外形、すなわち形とその内容、具体像は、一つの総合的な調和関係にある。形・色彩も含めて、全体として調和している姿として認識される存在である。自然のハーモニーすなわち調和が、さまざまな人間の自然に対する無理な干渉によって破綻した時その生物社会の活力は低下する。さらに生産能力、抵抗力が低下した場合、その集団は弱体化してゆき、潜在能力までも貧化させる危険性をもつている。

## '96夏の合宿研修

長野県・白馬方面

7月27(土)～28(日)  
にかけて夏の研修会が行  
われた。参加者過去最高  
の27名と成功裡でした。  
両日共晴天に恵まれ、  
また会員の体調も良好で  
有意義な研修でした。  
主なコースは、朝八時  
に出発、北陸自動車道を  
走り能生白山神社のアカ  
ガシ、タブ林を観察、千  
国を経由して梅池自然園  
の観察、二十八日(日)  
はオリンピック道路を通  
り、関田峠のブナ林を観  
察、チマキザサと生活を  
共にするシヨウキランに  
出会いました。更に野々  
海池周辺を散策して  
帰路についた。



今回の旅を通して、本物の自然の大  
切さとむしろまれていく自然の貧化に  
ため息をつくばかりであった。  
人々が健康で永続的に発展し続ける  
ための自然と共生・共栄・共生する自  
然管理が望まれるのでないだろうか。

突然原稿の依頼が来て、吃驚、一回  
投稿すれば二度ないから、と言われて  
いたのに何故か?理由は今年度、迷子  
になつて会の皆様に迷惑を掛けた人が  
書く事になつた理由とか。納得がいか  
ない。話は変わりますが七月二十七日  
二十八日と白馬方面に合宿研修に出掛けた。夏の大嫌いの私でしたが、梅池  
自然園はゴンドラ、ロープウェイと乗  
り継いで行き標高千九百メートルなの  
で、とても涼しい。梅池の湿原は地床  
にミズゴケがマット状に広がる高層湿  
原に分類されている。まだ残雪があり、  
春夏の花が一緒に咲き乱れ、湿原には、  
ミズバショウの群生。木道を歩きながら  
オオバミゾホオズキ、キヌガサソウ  
と写真でしか見た事の無い花に出会い、  
木道の脇には、イワカガミ、ゴゼンタ  
チバナ、ツマトリソウ、サクラソウ等  
小さな花が咲き、林縁には、ミヤマカラ  
マツソウ、コバイケイソウ等、残雪  
に足を滑らせ、風穴で涼を取る。その  
場所の近くにタカネザクラのピンクの  
色がなんともいえない。でも一番感動  
したのはシラネアオイに出会えた事で  
ある。自然に咲いているのは本当に始  
めてで、とても収穫があった気分にな  
りました。こんなすばらしい自然に触  
れる事が出来て有難うございました。  
又来年の計画を楽しみにしています。

白馬梅池自然園の  
美しさに感動して

小林 教

# !!育て・ふるさとの樹!!

九月二十九日(日)、十月六日(日)、秋の野に学ぶ会と併せてみどりを育てる活動を行いました。

今年度は両日共市内下条神社境内にウラジロガシ、アカガシ、シロダモ、ムクロジ、コウヨウサンの苗木を植栽しました。

この活動は、本物のみどりで囲む家と町をつくり、人々が健康で生々発展していくけるみどり豊かな生活環境づくりを目指して平成四年から取り組んでいます。下条神社には四月二十七日(土)、五月十二日(日)には、本日の自然のあり方を認識し地域の潜在自然植生群の実生育成しようとウラジロガシ、アカガシの種子を各自ポットに播種しました。

細々とした活動でありますが、長岡を中心とする平野部の潜在自然植生であるヒメアオキ—ウラジロガシ群集および隣接群集であるヒメアオキ—ブナ群集などの構成種の実成育成に更に取り組んでいきたいと思います。

九月二十九日(日)、十月六日(日)、秋の野に学ぶ会と併せてみどりを育てる活動を行いました。

今年度は両日共市内下条神社境内にウラジロガシ、アカガシ、シロダモ、ムクロジ、コウヨウサンの苗木を植栽しました。

この活動は、本物のみどりで囲む家と町をつくり、人々が健康で生々発展していくけるみどり豊かな生活環境づくりを目指して平成四年から取り組んでいます。下条神社には四月二十七日(土)、五月十二日(日)には、本日の自然のあり方を認識し地域の潜在自然植生群の実生育成しようとウラジロガシ、アカガシの種子を各自ポットに播種しました。

## 森林を大切に

江口洋子

「森が消えれば海も死ぬ」という本を読みました。昔から漁民たちは、海岸の森林を守ることが大切と知っていました。この森のことを「魚つき林」と呼んでいた。森の栄養分が海の生物を育てるのです。現在このことを知っている人は、漁師以外ほとんどなし……とも。私達は春には山菜、秋にはキノコや果実をとり、地下水や森林浴、土地流失や災害の防止、そして、森林伐採して得た豊かな生活、等々の恩恵を

受けていることを知っています。でも森の豊かさが海までも育てるとは、いつも先生が人と自然と地球とが、共存、共生、共榮し長い将来に渡つて『いつまでも地球が健やかで幸せで平和であるように』と云われる事が、よくわかりました。本物のみどりの回復をしなければいけない、人間の一生は木より短いのです。今を生きる人が将来生物がすめない地球にしては、いけないと思いました。森林を大切にし、微力ながら植栽もしてゆきたい、友人にも話してゆきたいと思います。今年も行きました峰越林道、連なる山々、ブナの森、何百年も生きたであろう巨木、「人間なんて小さいな」と思いま

## — 平成8年度活動報告 —

★テーマ 植物の生きざまに学ぶ

1. 早春の山野草を訪ねる会兼総会
  - 方面 角田・西山方面
  - 期日 4月7日(日)
2. 春の野を歩き山菜を食べる会
  - ①●方面 小木ノ城・松代方面
  - 期日 4月27日(土)
  - ②●方面 柏崎・松代方面
  - 期日 5月12日(日)
3. みどりを育てる会
  - ①樹木の播種 ●4月27日(土)・5月12日(日)
  - ②樹木の植栽(アカガシ・シロダモ・ウラジロガシ)
    - 9月29日(土)・10月6日(日)長岡市下条神社境内
4. 夏の植物観察会兼合宿研修会
  - 方面 長野県・白馬方面
  - 期日 7月27日(土)~28日(日)
5. 秋の野に学ぶ(キノコの識別、冬芽他)
  - ①●方面 津南方面
  - 期日 9月29日(日)
  - ②●方面 北魚沼・川口町田麦山方面
  - 期日 10月6日(日)
6. 学び合う会
  - 場所 長岡市台町1 「アトリウム長岡」
  - 期日 12月7日(土)
  - 内容 ○スライド、ビデオ映写、○総会(活動反省、会計中間報告他)、○懇親、○忘年会
7. 機関紙の発行 第11号
  - 時期 12月7日(土)
  - 内容 活動のあしあと・感想・山野草へのおもいなど



した。そしてしっかり頂いて来ました。本物?のナメコ。ミソ汁にしました。美味でした。

# 平和の森づくりに協力

—長岡市平和の森公園—

6月23日(日)

昭二十年八月一日米空軍により長岡は激しい空襲に襲われました。それから五十年を経て二十一世紀を平和の世紀にするために、長岡から世界に向けて平和の祈りを発信するために『平和の森』が「平和の森公園」の一角約六〇〇m<sup>2</sup>が造成されました。

「平和の森」は、環境破壊と人間性崩壊が進行している中で、本物の生物生存環境づくり（人間を含む）と人の心を育むことを目指しています。

「平和の森」は、長岡の潜在自然植生の構成種を用いたふるさとの木によるふるさとの森です。最も自然に近い理想的なふるさとの自然のモデルの一つでもあります。「山野草をたずねる会」小日向会長は、発起人として参画、森の設計を担当されました。

「山野草をたずねる会」としては森づくりの趣旨に賛同し、土づくりを始め、植栽活動を全面的に協力しました。

当日は、多数の市民と会員二十名が猛暑の中、四二〇本を植栽しました。自分で植えた木を大事そうにながめている姿が印象的でした。



## すてきな出会い

鈴木 千代枝

平成七年十月、義父の看護で、私の病院生活が続いていました。永井さんのおばあ様が向かいの病室に入院され、永井さんの懸命な看護振りに感銘を受けました。小春日和のある日、永井さんの病室に見舞客なんとびっくり、同級生の小林さん!!十数年振りの再会です。以来よく寄せて頂き、ご馳走になり『山野草をたずねる会』を知り、早速手続きをとつて頂きました。春一番、雪割り草の可憐な群生に、感激し、よっちゃん、ねこさん、むーさんと、呼び合っていられる会員の皆様との素晴らしい出会いに感謝。「まず植物の名前を覚えましょう。」との小日向先生のお言葉に、お聞きしても、三歩歩くと、もう忘れてしまいがつかりですが、咄嗟に思い出した時は、心豊になります。

『平和の森公園』に、お手伝い出来たことも、一生の思い出になることでしょう。あの夜のセレモニーに参加して尚、実感です。友の詩の朗読、自作自演ということで気はすかしく、誰にも内緒だったの……。と、久し振りに会った友と「よかつたよ」と、手を握り合ました。

回りのお寺の木の様に、早く大木になつて、木陰を作り『平和の森』になつてほしいのです。すてきな人にたくさん出会うことができました。これからも……。

# “宮脇 昭先生を囲む会を開催”

十月十九日(土)、山野草をたずねる会顧問の宮脇昭先生が県小学校長会五十周年記念講演で来県され、この機会に「宮脇昭先生を囲む会」が開催されました。宮脇先生からは「人と自然との共生共榮」「あるべき人間生存環境の創造」「中国の荒廃地、万里の長城のみどりの回復」について専門的な立場でご指導をいただきました。

植生学や生態学において、国際的に権威ある宮脇先生からご指導をいただく機会を得たことは意義深いことでした。

当日の会には会員27名と特別参加者、日本ホリステック教育県支部長山之内義一郎氏、平和の森をつくる会々長藤田芳雄氏、十日町市立南中学校長佐川通氏が参りました。宮脇先生からは山野草をたずねる会への賞賛と期待感が表明いただきうれしく思いました。

宮脇昭先生は山野草をたずねる会小日向孝会長の恩師であられ、これからもお元気で会のご指導をいただけることを期待しております。



## 野の花を求めて

池田保子

今、私が植物とつながりをもつてゐるのは、どんなことからであろうかと考えてみた。

小日向先生に出会い、たくさんの中植物の名前や特徴を教えてもらつたこと、職場の仲間と毎年、夏山登山をして美しい高山植物に出会つたこと、生まれが田舎であり、海や山、特に野の自然に接する機会がたくさんあつたことなどが考えられる。

しかし、一番の理由は子どもの頃の思い出の中にあるような気がする。それは、母がくれた野の花のやさしさであり、幼い時に見た自然の美しさのように思う。

母が野良仕事から帰つて来る時、いつも季節のものを届けてくれた。春には菜の花やスミレやタンポポを、初夏にはアザミやタニウツギ、そして苗代イチゴであり、秋には野菊などだった。ある年、春のまだ早い時に、母はユキワリソウの咲いている所に私を連れて行つてくれた。雑木林を登つて行くと斜面一帯が美しい花でいっぱいだった。白い花、薄紫の花、濃い赤紫の花が足の踏み場もないくらいだった。夢のような風景であった。

## 中高年の散歩道

平井信次

皆様方は山の知識がおありのことだと思いますが、よくあるまちがいで一番多いのが道迷いです。特に中高年の場合道迷いが圧倒的に多いといいます。最低三位の友が必要だと思いません。救助信号等の発信や自力脱出判断も迫られます。が次のことについて注意したいものです。

①迷つたと思ったらむやみに動き回らない

②手袋、靴下をぬらしたままにしない  
③汗の処置をしつかりとする  
④アルコールの飲みすぎに注意(体温を下げたり、ピンチを切り抜ける意欲の低下につながる)

厳寒下での眠気は死に直結するといいます。自然散策は常に危険性を背負っていますから疲労度を考えたゆとりある計画が安全への道だと考えます。一九九七年も県内の山々を語り合い楽しみあいたいと思っています。



# ●植物の生きざまに学ぶ 一会員の声●

思  
い  
出

栗山 勢津子

私が山野草の会に最初参加させて戴いたのは、六十一年の糸魚川蓮華温泉の旅でした。私が山や植物が大好きな事を知っていた友達からのお誘いでした。何年振りの山で、遊歩道の高山植物や、夜の露天風呂すばらしさに、感激の連続でした。

その時参加出来なかつた方からの呼び掛けで、平成二年に六名で再度おとづれ、遊歩道の散策や金山シャクナゲの山に驚きの連続で、思い出の宿舎で一泊し、翌日時間があり計画の無いままで行き当たりばつたりで、大糸駅に飛び乗り降りたたのが白馬大池駅でした。駅前で梅池自然園を知り、その時はロープウェイも無く、ハイヤー二台で到着して、園内の遊歩道を一周全部廻って、色々の高山植物に満足して帰途に着きました。

今年の夏の白馬方面の旅で、六年振りに、又梅池自然園に連れて行つてもらつた。

会員の声



たのですが、ロープウェイに乗ったので道や景色が全然違ひ、年のせいで記憶がさだかでなく、自分でもあきれて居ります。偶然にも前回と同じ日時頃なのに、前の写真で見ると植物、花が今年は少なかつた様に感じました。今後も体の続く限り、毎回楽しみに参加させて戴き度と思つて居りますので、先生始め会員の皆様よろしくお願ひ致します。

入会一年目を省みて

金子 稔

昨春此の会に入会させて戴きもう二歳目も終りそうです。

早春の山野草を訪ねる会は、角田山の雪割草と御島石部神社の椎の樹の観察に始まり、春の野を歩き山菜を食べる会は（一回目）快晴に恵まれて宮本から西山丘陵を小城の城へ早春の植物を観察し、昼は山菜料理を頂戴し大変美味しかつた。帰りのコースは何処を通つたか定かで無いが確か川西町を回つて来た様な気がする。（二回目）は合憎の小雨をついて私の案内で柏崎市野田から市野新田へ行き、米山茸園の前庭で山菜料理を作つてお昼を済ませてから午後からは残雪の尾根路を辿り、大スマ草の群落とシラネアオイを観察する予定が折からの雨の為に途中で引き返したのが残念だった。来年はきっと案内したいものだ。

夏の植物観察兼合宿は参加出来なかつたので残念だったが、夏の植物観察の下見に行き、斑尾高原の希望湖から関田峠へ登り鍋倉山の茶屋池、そして平滝から野々海池へ行き帰りは大巣寺高原を回り初夏の山々の景観が素晴らしかつたので、十分自然と親しむ事が出来よかつた。

しかし今年も植物の名称の方は小日向先生を幾ら煩わしても、生來の頭の悪いと、歳のせいで覚えられないで申

し訳ないと反省している。

それでもキハダの樹とウリハダカエデそしてウワミズザクラ、コシアブラは何とか覚える事が出来て良かつた。

秋の野に学ぶ会（茸の研修）の一回目はグリーンピア津南手前の雑木林での茸採りは種類も豊富で収穫も多く、色々の見分け方や名前を教えて貰つたり、茸の発生する場所の条件等も自然と判つたが田麦山での茸汁の味は美味しかつた。当日は残念ながら一人行方不明になり捜索隊を出す等のハプニングも有つたが、無事発見出来ホッとした。ひと事では無いので自分も含めて気を付けなければと……思つた。

そして又、来年も山野草を訪ねる会の活動を通じて自然に親しみ自然を大事にして行きたい。私の場合は山遊びの方が優先てしまい他の会員の皆様には申し訳無いのですがお許し下さい。最後に今年の活動の中で春の山菜料理と秋の茸汁等作つて下さつた皆様に心より御礼を申し上げます。



## 捕虫モーセンゴケの仕組み

長橋美代

今年こそはと思いながらなかなか参加出来なくて残念でした。でも研修一泊旅行はすばらしかったです。いろいろ見たり聞いたり特にシラネアオイに出会った時は感激でした。二日目にはモーセンゴケにお目にかかりました。初めて見たので心に残つて居りました。其の後市政だよりの園芸教室に出て居りましたので書かせていただきます。



## 秋の一日

木曾誠子

ある晴れた秋の一日、友達数人と金倉山へ行つた。細くくねくねと曲がった道をどんどん車で登つていく。ほとんどの車に出会い

ことなく、紅葉に色どられた山々を眺めながら進んだ。まさに紅葉まつ盛りである。この山は黄色が多くを占め、その中



で赤や緑がとても美しく見えた。

頂上近くに車を止めて散策した。頂上まで葉を集めながら登つた。ヤマモミジ、ウリハダカエデ、イタヤカエデ、オオバクロモジが主なものようだつた。

今年は山の実がなくて、熊が里まで出て来て困るという話を聞いていたが、確かに、どんぐりやガマズミ、アズキナシ、ムラサキシキブなど、今まで秋の散策の楽しみの一つだった木の実を見つけることがほとんどできなかつた。これは今年の気候の為だけなのか、それとも大きな地球環境の変化があるのだろうか。少し不安な気持ちになつた。

も気温の変化の激しさの為か、今年の紅葉は特に美しく感じた。

大自然の美しさに囲まれながら、持ってきた肉や野菜を焼いて食べ、楽しい一時を過ごした。近くの林の中で見つけたキノコもおみやげにできた。このような豊かな自然をいつまでも残していきたいと強く思った。

平成8年12月7日

## グリーンパーク水沢

—荒地を緑豊かな地に—

吉井京子

かけがえのないふるさと片貝を豊かな自然に包まれたまま現存させたい—そんな願いから生まれたグループが片貝にあります。

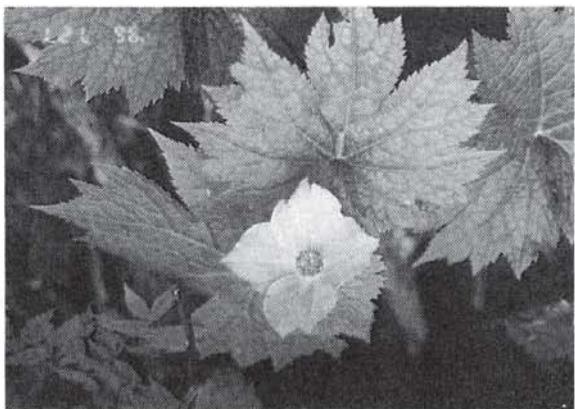
ミズバショウを群生させるためと、山を守ることなどを目的に、昨年秋には、ブナを二百本植樹しました。今年は、半分以上が根付き、ミズバショウは、少しづつ株を増やしています。私も、時々様子を見にいきますが、せっかく植えたミズバショウが、大水で流されたり、道が土砂で埋まつたりで大変ですが、下草刈り、土砂で埋まつた川の整備、植樹、歩道作りに汗を流しておられる。

将来は、ミズバショウの群生地、ブナ林、ツツジ、ショウブを植え、カワニナが住んでいるのでホタルの群生地に、そして沢ガニ、野鳥の集まる、そんな所にしたいと夢をふくらませておられる。

私は会員とは名ばかりで、労力奉仕もできないでおりますが、—グリーンパーク水沢ーの話は徐々に広がり、会員の輪が広がっている。

現在、片貝中学校の裏山は土をとるためにハダカ山になっている。

緑の樂園を作るのは容易ではないが、次の世代のために、心のいこいのためにも、手をつなぎ、自分のできるボランティアを心がけたいのです。



## 夏期合宿研修等について

大谷内英子

私が山野草の会に入れて戴いて、はじめての夏の合宿研修は飛島でした。は歩いて一周出来るような小さな島を覆うばかりのタブの自然林と、そのまわりの植物達は、今でも目に浮かび、忘れられません。

延々と続く、朝日スーパー林道の、ブナ林も見事なものでした。

戸隠方面の旅で印象に残ったのは、鬼無里村と、歴史を感じる大きな杉並木と石ころ道の奥之院です。

期待して居た今年の白馬方面の旅、梅池自然公園はとても素晴らしい。鬼無里村と、歴史を感じる大きな杉並木と石ころ道の奥之院です。

夏期の合宿研修は、いつも楽しくてただの観光旅行にない充足感があります。判らない植物の事は先生が、何回も教えて下さるのに、忘れてばかりで申し訳なく思っています。でも会を重ねる毎に、太古の昔から自然の恩恵を受けた私達人間は、もっと植生について考えなければならないと思います。

紅葉もそろそろ散りはじめ、樹木達も冬支度の頃ですが、来年の、早春の山野草をたずねる会、が待たれます。それにつけても、お忙しい中、私達を引率して下さる先生、安全運転で送迎して下さる岡村さん、連絡や会の設営等、役員の方々に心から感謝しています。

## 編集後記

「かしのみ11号」ができました。いつもながら会員の皆様にはお忙しい中原稿を期限までにお届けいただきましてありがとうございました。

今年は、平和の森の植栽活動や顧問の宮脇昭先生を囲む会なども行い、定例の会とは違った活動も入ったので一層賑やかな報告となり喜んでおります。

来年はいよいよ十五周年を迎えます。何か記念に残るものとしたいのです。

（小幡・品田・長谷川（和））

